

連携する大切さ学ぶ

諏訪市ゼロカーボンシティ推進室

職員対象にSDGs研修会

諏訪市ゼロカーボンシティにしたSDGs（持続可能な推進室は5日、市職員を対象 開発目標）研修会を市役所で



事業実現に向けて活発に意見を交わす諏訪市職員たち

開いた。若手職員を中心に約40人が参加し、まちづくりを疑似体験できるカードゲーム「SDGsで地方創生ゲーム」に取り組み、多様な人と連携する大切さを学んだ。

4月に新設されたゼロカーボンシティ推進室が初めて企画した。諏訪湖でカヤック体験を提供するアポルタ合同会社（同市）の井川竜太代表を講師に迎え、一般市民や商店主、まち工場経営者、観光事業者、NPO、行政職員などに分かれ、お金と資源をやり

とりしながら、事業の実現とまちの活性化に取り組むカードゲームを体験した。

ゲームを進めていくと、お金や人材が足りなかったり、まち全体の人口や経済、環境、暮らしが基準に達していなかったりして、事業化できない場面もあった。参加者たちはまち全体の活力を意識しながら、他のグループと積極的に交渉し、事業を実現する手法を活発に話し合った。

一般市民として教育事業の達成を目指した水道局施設課

上水道係主任の井上達也さん（28）は「人とお金を集めるのが大変で、行政の力の大切さを改めて感じました」と話した。同推進室は「SDGsも

ゼロカーボンも幅広い分野に関わる。今後の時代に必要ない広い視野を身に付け、職員力を高めてほしい」と願っていた。（唐沢宏）